



食環協 ニュース 139

地域のために、地域とともに行う美化活動を表彰

「第22回環境美化教育優良校等表彰伝達式」が開催されました

第22回を数える「環境美化教育優良校等表彰事業」は、新型コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、最優秀校が一堂に会した会場での式典開催を中止し、昨年同様、各受賞校と相談の上、表彰伝達式を各校において実施いたしました。規模は縮小されましたが、今回も、児童や生徒および教職員、地域の皆さんを始め、行政や飲料団体関係者にお集まりいただきました。また、受賞校や行政のお力添えを賜り、テレビ局や新聞社など報道機関も多数駆けつけるなか、本年も活気に満ちた表彰伝達式が行われましたことに心より感謝を申し上げます。

この表彰は、独創的な環境美化教育に継続的かつ熱心に取り組み、地域社会と連携しながら「公共の場所の美化」または「飲料空き容器等のリサイクル」を実践することにより、地域の環境美化に大きく寄与している小・中学校等を選出し表彰するものです。

本年度は、都府県から推薦を受けた小・中学校35校の中から、審査委員会による厳正な審査を経て、最優秀賞となる「文部科学大臣賞」「農林水産大臣賞」「環境大臣賞」「協会会長賞」の4校が選定され、表彰の運びとなりました。なお、優秀校6校、優良校25校の表彰校については、P9以降に掲載されています。



ひない
秋田県立比内支援学校たかのす校



ひなしろ
福岡県朝倉市立蜷城小学校



まさご
新潟県新潟市立真砂小学校



おかとみ
宮崎県延岡市立岡富中学校

最優秀校4校の表彰伝達式レポート

最初に開催された表彰伝達式は2月2日(水)13時15分、環境大臣賞を受賞した「新潟県新潟市立真砂小学校」です。冒頭、新潟県県民生活・環境部 環境企画課 地球環境対策室長の土屋江理子様から、「海岸清掃を中心とした熱心な取り組みが高く評価されたことは、推薦者としても大変うれしいです」とあいさつ。賞状授与に続き、児童代表の渡部里咲さんと六間口花音さんが、「小針浜の海をきれいにしたいと思って取り組んできたその気持ちと活動が認められて、受賞につながったんだと思います。約26年間続けてきた歴史に、新たに名を残せたと思います」と喜びを語りました。



続いて2月4日(金)13時15分から行われたのは、文部科学大臣賞を受賞した「秋田県立比内支援学校 たかのす校」。学校の活動紹介ムービーが上映された後、鎌田裕之校長が、「地域の皆さまにはこれまで本当にたくさんの支援を頂いております。この受賞は、地域へのお礼という意味でもご報告できると思います」と感謝の気持ちを表しました。賞状授与の後、生徒代表の宗像乃葵さんが、「地域の清掃や除草、除雪活動を、私たち中学部が頑張っていることを覚えてもらえるように、地域の一員としてこれからも取り組みたいです」と抱負を語りました。地元のテレビ局や新聞社が多数集まる中で行われ、会場はあたたかな祝福ムードに包まれました。

2月9日(水)11時40分にオンラインにて開催されたのは、協会会長賞を受賞した「宮崎県延岡市立岡富中学校」です。「これまで行ってきた地域美化や地域活性化に自主的に関わろうとする生徒が、いっそう増えていくことを願っています。この荣誉ある受賞を記念し、活動拠点のコノハナロードに河津桜を植樹します」と栗田茂樹校長があいさつ。続けて、生徒代表の三谷彩乃さんが、「活動をいろいろな形で応援してくださった皆さんで取れた賞だと思います」と謝意を表しました。その後、舞台は学校からコノハナロードに移り、植樹式がスタート。報道関係者も駆けつける中、住民代表と生徒代表が1本ずつ、伝統が引き継がれていくことを願いながら、記念樹を植えました。



農林水産大臣賞を受賞した「福岡県朝倉市立蜷城小学校」では2月22日(火)13時から行われました。会場の体育館には、全児童と学校関係者、日本赤十字社の職員が集まり、学校活動紹介ムービーを視聴後、前田圭子校長が「奉仕が当たり前の精神は、地域文化として脈々と息づいていますので、この受賞は、地域全体の功績を認めていただけたものと考えています」と晴れやかにあいさつ。最後に、児童代表の井上千夏さんが、「青少年赤十字に加盟して来年は70年になりますが、先輩方の思いを忘れず、農林水産大臣賞という大きな賞に恥じないように活動を続けていきます」と決意を語ると、会場は盛大な拍手が沸き起こりました。テレビ局の取材にも堂々と応じるなど、最優秀校の表彰伝達式の最後を飾るにふさわしい輝かしい式典となりました。

表彰事業関係者のあいさつ（要旨）

地域の中での学び合いを通して、 児童生徒は自己肯定感を高め、自己を確立する

審査委員長 東京学芸大学名誉教授 小澤 紀美子様



審査会では、次の4つの審査基準に基づき評価いたしました。まず1つ目の基準は、独創性、そして継続的に進めていることです。2つ目は、活動の内容が客観的根拠をもち、実践的な学びと結びついていることです。3番目は、児童生徒の活動が地域社会と連携していることです。このことは重要な視点で、小・中学生は、自分と社会、地域とのつながりの中で自分を見出し、かつ世界へ目を向ける段階として自己を確立していくときに、地域と連携することによって、自分自身の骨格がつけられます。そして4番目は、活動の広がりです。今回の最優秀校の活動を通して、学校という閉じられた空間だけで児童生徒は学んでいるのではなく、地域の中で、大人も含めた方々と相互に「学び合い」が行われていること、さらに児童生徒は地域とのつながりを実感しながら自己肯定感を高め、自己を確立していることを改めて確信しました。同時に、地域が「屋根のない学校」として機能していること、「学びは未来への光」であり、「希望である」ことを再認識することができました。

学校や家庭、地域の環境教育の推進を図り 環境への理解と関心を深める体験活動を

文部科学省 初等中等教育局 教育課程課長 常盤木 祐一様

環境問題は、持続可能な社会を構築していく上で重要な課題です。令和2年度から順次実施されている新学習指導要領では、各教科等での環境教育に関する指導内容を充実しており、文部科学省としては、子どもたちが、体験活動などを通じて、環境に対する理解と関心を深め、具体的な行動に結びつけられるよう、学校教育をはじめ、家庭や地域などにおける環境教育の推進を図っていきたいと考えております。文部科学大臣賞を受賞された秋田県立比内支援学校たかのす校、並びに、各自治体から推薦された各学校におかれましては、特色を生かしたさまざまな取り組みが実践されており、これらの取り組みが継続・普及され、今後の環境教育の一層の充実・発展に寄与することを心から期待いたします。



社会的な課題解決に向けて 「気づき、考え、実行する」活動は極めて重要

農林水産省 大臣官房新事業・食品産業部外食・食文化課
課長補佐(容器包装リサイクル班担当)

五十嵐 勝彦様



今回、農林水産大臣賞を受賞された朝倉市立蜷城小学校の皆様は、登校時のポイ捨てごみの回収活動や校区地域の奉仕活動により、長きにわたり地域に貢献されております。また、河川に囲まれ、農業が身近な地域にあって、ごみの飛散先やさまざまな発生源を意識し、環境問題、防災問題に取り組まれていることは、大いに評価されるものです。また、環境問題、防災問題に限らず、社会的な課題の解決に向けては、皆様がこの活動で培った「気づき、考え、実行する」ことは極めて重要なことでもあります。この活動の経験を生かし、さらに成長されることを願うとともに、皆様のご活躍を心から応援しております。

プラスチック問題の解決に向け 資源循環が進む社会を一緒に作ろう

環境省 環境再生・資源循環局 総務課 リサイクル推進室 室長 平尾 禎秀様

プラスチックは利便性が高く、生活にさまざまな恩恵をもたらしている一方、生態系や環境への影響が懸念されています。国としても、プラスチックと賢くつきあうために、プラスチック資源循環法を作りました。この法律は、プラスチック製品の製造から使用後までのあらゆる段階で3R+Renewableの取り組みを求める法律で、2022年4月1日から始まります。今回環境大臣賞を受賞された新潟県新潟市立真砂小学校の海岸清掃活動は、美しい海と砂浜を守り、プラスチック問題の解決に貢献する大事な取り組みの一つです。是非この素晴らしい取り組みをきっかけとして、プラスチックの資源循環が進む社会を一緒に作っていただけると嬉しいです。



■ 最優秀校の活動紹介および出席者インタビュー

美化活動で生徒が頼られる存在になり共生社会の基盤が整う

文部科学大臣賞 ^{ひない} 秋田県 秋田県立比内支援学校 たかのす校



小学部、中学部、高等部からなる特別支援学校として、北秋田市に開校した同校。地域をフィールドに、地域とともに育ち、地域に感謝される学校をスローガンに掲げ、さまざまな環境美化活動を行っている。中でも、中学部が取り組む、通学路や周辺道路、老人介護施設などでのごみ拾いや清掃活動は、長年続く恒例行事として地域に定着。活動前と活動後の写真を撮影し、比較することで、生徒自身が取り組みの成果を実感できるように工夫を凝らしているのが特徴だ。また、自分たちが使用している最寄りのバス停や駅舎でも、清掃に励み、季節の花々を植栽。その様子を見守る住民からは、感謝の言葉が寄せられている。自分たちの活動の結果に自信を深めた生徒は、一人暮らしの家屋や寺院などに出向き、除草や除雪も実施。寒い冬や暑い夏など、住民が困っている時期に合わせて生徒が活動するために、地域からは自然と期待されるようになった。それがやりがいに結びつき、地域の一員としての自覚を高めている。環境美化をツールにした、共生社会の基盤が着々と築かれている。

秋田県立比内支援学校 たかのす校の皆さん

「地域でのさまざまな体験活動を通して、生徒はやり遂げる達成感、自分たちが役に立っている有用感につながり、他の活動への意欲に結びついています。結果として、将来、地域で生活したり働いたりするための力になっていくだろうと考えています。今後も、地域美化や貢献活動を続けていきたいと思っています」

秋田県教育庁 特別支援教育課 指導主事 ^{たくほ} 進藤 拓歩様

「県内のさまざまな特別支援学校においても、今回の受賞は大きな励みになったと思います。自分たちの住む街のことを自分のこととして考え、環境にも目を向けていく取り組みを通して、卒業後の自立や社会参加に向けて子どもたちが成長していくのはとても重要だと考えています」

青森地方連絡会議 ^{よしみ} みちのくコカ・コーラボトリング株式会社 執行役員 グループ管理本部副本部長 兼 グループ人事部長 阿部 嘉氏(写真右) グループ人事部 広報・サステナビリティ推進課 チーフマネージャー 高橋 大介氏

「地域に根付いた活動を長年にわたり継続していることは、あらためてすごい取り組みだと実感しています。こういった形で、地道な活動がクローズアップされるのは、とてもいいことだと思いますし、この受賞が自信につながり、これからの学校・社会生活に生かして頂ければうれしいです」



社会への恩返しから始まった気高い精神を継いで美化活動に挑む

農林水産大臣賞 ^{ひなしろ} 福岡県 朝倉市立蜷城小学校

桂川、佐田川、筑後川と3つの川に囲まれた、のどかな農村地帯に位置する同校。水の恩恵を受ける一方で、幾度も水害に見舞われてきた。特に、1953年の豪雨は多数の被災者を出した大災害で、各国の赤十字団や住民がいち早く救援に駆け付けてくれた。当時の児童は、感謝の思いから、青少年赤十字団（JRC）に加盟。川魚を獲って販売するなどして、貯まった資金をもとに活動を始めた。その精神は現在まで受け継がれ、JRC活動の一環として、VS（ボランティアサービス）登校やVS活動を行いながら、地域のためになることを考え、自発的に取り組んでいる。具体的には、登校時に通学路などのポイ捨てごみを回収したり、校区の地域清掃を率先して行ったりする活動だ。基盤産業が農業の土地柄、道路や側溝には肥料袋などのごみも目立つ。環境と防災がリンクする形で学びを深めている児童は、排水溝などに溜まったごみが水害の一因となることを知り、積極的に溝のごみ掻きを行うようになった。69年前、先輩たちが胸に刻んだ「社会への恩返し」。今は、47名の児童たちが原点を忘れることなく、美化活動に励んでいる。



福岡県朝倉市立蜷城小学校の皆さん

「いろんなアイデアを取り入れながら、VS登校や地域の美化活動に、当たり前のこととして取り組んできました。蜷城小で育った子どもたちが今後は、地域、そして地球の環境を守る担い手として活躍してくれることを大いに期待しています」



福岡県教育庁 北筑後教育事務所 指導主事 ^{かねがえ} 鐘江 貴子様

「この受賞は、皆さんや卒業生が69年にわたりごみ拾い登校を続けてきたことが認められたのだと思います。皆さん一人ひとりに、身近な環境を大切にし、自分にできることは何かを考え、実行に移す力が身についていることでしょう。今後のご活躍を祈念します」



福岡地方連絡会議

コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社 CSV推進部

コミュニティリレーション課 担当課長 白井 章広氏（下部写真左）

ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社 営業本部 西日本営業本部

九州支社 アシスタントマネージャー 須藤 紳二氏

「先ほど、学校周辺を少し歩いてみたのですが、ごみひとつ落ちていなくて感心いたしました。これは毎週水曜日に行っているVS活動・登校が実を結んだ成果だと確信いたしました。これからもぜひ、奉仕が当たり前の精神を継承していきましょう」



海岸清掃を軸にした系統的活動で地域のアイデンティティーを育む

環境大臣賞 新潟県 新潟市立真砂小学校^{まさご}



校舎から日本海や佐渡島を見晴らせる同校では、その豊かな環境を守るために小針浜海岸の清掃活動に取り組んでいる。今年で26年目を迎える伝統行事だが、恒例の取り組みで終わらせるのではなく、学校が中心となり、児童が地域の良さを見つけ、地域のアイデンティティーを築ききっかけにしようと、2020年から新たなプロジェクトを立ち上げた。主に4年生が、全校で行う海岸清掃の前に、浜辺を訪れごみ調査を開始。同時に、本や映像などで漂着ごみについて知識を深め、問題を自分事としてとらえる。清掃当日は、ごみの回収係、集計係、写真記録係など担当を決めて活動。新潟海上保安部の協力を得て、指導や解説を聞いた後、児童は、回収ごみを種類別にグラフ化する。分析を通じ、浜辺を利用する人に発信しようと、啓発ポスターを作成し、地域の病院や商店などにポスターの掲示を依頼。その結果、以前に比べ、海岸のごみは減少。普段からポイ捨てごみを気にかけるなど、児童の意識にも変化が見られるようになった。海岸清掃を機に、自慢の美しい海と砂浜がある地域への誇りが育まれている。

新潟県新潟市立真砂小学校の皆さん

「海のことを調べて、自分たちでできることは何かを考えて、地域に呼びかける活動を行うことができました。これからは真砂の地域、小針浜を思う気持ちを大切に、行動に移して、少しずつ環境を良くしていくことをいっしょに続けていきたいと思います」



新潟県県民生活・環境部 環境企画課 地球環境対策室長 土屋 江理子様(写真左)

新潟県県民生活・環境部 環境企画課 企画調整係 主事 菊地 奈々美様

「今回の最優秀賞の受賞を機に、県としても、今後いつそう、地域といっしょに取り組む環境保全活動に力を入れていきたいです。また、中高生になっても、小学校での体験活動を生かして、もっと環境に目を向けていく子どもたちが増えてくれるとうれしいです」



北陸地方連絡会議 キリンビール株式会社 新潟支社 支社長 泉水 謙二氏

「学校活動の紹介ムービーの中で印象に残ったのが、日本海のきれいな夕日を描いた手づくりの環境啓発ポスターです。海を含めた地域の環境を大事にしたという気持ちが、一人ひとりに根付いていることを実感しました。今後もこうした活動を支援しながら、手と手をとって盛り上げていけたらと思っています」



生徒が発信する住民の尊い功績が地域の美化や活性化に寄与

協会会長賞 宮崎県 延岡市立岡富中学校^{おかとみ}

市の中心部にあり、目の前に「五ヶ瀬川」が流れる同校。その堤防沿いは、生徒の通学路になり、桜や菜の花が咲き誇る憩いの場として市民に親しまれている。しかし、かつてはごみが散乱する殺風景な堤防だった。そこを地域の拠り所にしたと、住民が桜の植樹を開始、やがて市の名所に生まれ変わった。同校では、単独で校区の清掃活動に取り組んでいたが、そうした住民の動きを知った生徒は、2016年から協働で実施。「延岡探検隊imotakoプロジェクト」と名付けて、住民とともに堤防沿いの清掃や花壇の植栽に取り組む。さらに、堤防で行われる市民手づくりの祭り「延岡花物語」にも参加。環境意識向上につなげるために、リサイクル素材で作った風車を堤防沿いに設置、毎年、市民の目を楽しませている。市内中学校19校に作成協力と呼びかけて、昨年は1500本の風車が堤防を彩った。同時に、生徒は、最初に桜の植樹を始めた住民の功績を後世に残そうと、紙芝居を手づくり。環境教育出前授業の一環で、小学校や幼稚園で紙芝居の読み聞かせを行うなど、生徒の力強い発信が地域を巻き込むうねりに発展している。



宮崎県延岡市立岡富中学校の皆さん

「受賞につながった活動は、先生方や地域の方々のサポートがなければ成功を収められなかったと思っています。改めて感謝を申し上げるとともに、さらに環境に関する活動を行っていきたいと考えていますので、応援して頂きますようお願い申し上げます」



宮崎県 環境森林部 循環社会推進課 企画・リサイクル担当 主事 野村 大地様

「先輩たちが残してくれた伝統を引き継いで、地元の方と連携し、環境教育に取り組んできた結果がこのような素晴らしい賞につながったものと思います。今後も、次世代につなぐ活動を継続し、延岡の自然がいつでも豊かであり続けるよう取り組まれることを期待しています」



宮崎地方連絡会議

キリンビール株式会社 南部九州支社 宮崎支店 支店長 長友 良弘氏

「皆さんの環境に対する取り組みは、延岡市を良くする取り組みだけではなく、皆さん自身の心も豊かにする活動だと思います。そして、これまで続けてきた取り組みが認められたことへの喜びを皆さんで分かち合ってください、ぜひ次の世代へ引き継がれ、末永い活動になりますことを願っております」



第22回 環境美化教育優良校等表彰事業 表彰校一覧

最優秀校 (4校)

■ 文部科学大臣賞 秋田県 秋田県立比内支援学校 たかのす校

■ 農林水産大臣賞 福岡県 朝倉市立蜷城小学校

■ 環境大臣賞 新潟県 新潟市立真砂小学校

■ 協会会長賞 宮崎県 延岡市立岡富中学校



優秀校 (6校)

青森県 階上町立道仏小学校

東京都 港区立港南中学校

岐阜県 郡上市立八幡中学校

大分県 豊後高田市立真玉小学校

鹿児島県 垂水市立松ヶ崎小学校

沖縄県 西原町立坂田小学校

優良校 (25校)

岩手県 釜石市立釜石東中学校

宮城県 東松島市立矢本西小学校

山形県 鶴岡市立湯野浜小学校

福島県 田村郡小野町立小野中学校

茨城県 鉾田市立旭北小学校

栃木県 那須町立田代友愛小学校

群馬県 高崎市立中尾中学校

富山県 氷見市立灘浦小学校

石川県 穴水町立穴水中学校

福井県 大野市開成中学校

山梨県 身延町立下山小学校

長野県 諏訪市立諏訪中学校

静岡県 吉田町立住吉小学校

愛知県 南知多町立篠島小学校

三重県 四日市市立三重西小学校

大阪府 寝屋川市第十中学校区

兵庫県 西脇市立黒田庄中学校

奈良県 橿原市立畝傍中学校

和歌山県 田辺市立上秋津小学校

山口県 宇部市立藤山中学校

徳島県 阿南市立伊島小学校・伊島中学校

愛媛県 松山市立日浦中学校

高知県 黒潮町立佐賀中学校

長崎県 南島原市立口之津小学校

佐賀県 佐賀県立うれしの特別支援学校 中学部

■ 優秀校・優良校の表彰状等伝達式の開催

第22回環境美化教育優良校等表彰事業において、全国の小・中学校の中から優秀校、優良校に選ばれた学校で伝達式が行われました。その様子を一部ご紹介します。ここにご紹介した以外の受賞校については、食環協ホームページでご覧いただけます。

【優秀校】受賞校6校のうち2校を抜粋紹介

岐阜県 ぐじょう はちまん 郡上市立八幡中学校

たった一人の生徒がごみ拾いを始めたのを機に、賛同した後輩が引き継ぎ、現在は「ごみ拾いボランティア」として、学校全体の取り組みに発展している。生徒会が中心となり月10回ほど、登下校時の通学路で活動。安全面から徒歩通学者のみが行ってきたが、バスや自転車通学生も美化活動に参加したいという声上がり、雑草抜きや清掃などに勤しんでいる。この取り組みを市長に提案したところ、市長を始め市職員もいっしょにごみ拾い活動を実施した。さらに、感銘を受けた住民も行うようになるなど、生徒の姿が市民を動かしている。

「単なるごみ拾いから、キレイな町づくりをしたいという思いで参加するようになり、自分の生き方にもつながりました。『誰のため、何のため』を常に問いかけながら、ボランティアを八幡中学校に広げていった生徒会を誇りに思うと同時に、後輩に引き継がれることを願っています」

【伝達式の出席者】 ●岐阜県 郡上市立八幡中学校の皆さん
●郡上市教育委員会 横関 慶様
●三重・岐阜地連 波戸本 滋氏（株式会社伊藤園）



沖縄県 にしはら さかた 西原町立坂田小学校

「あたり前のことができる坂田小」をスローガンに掲げ、児童会主体で清掃活動に取り組む。2005年頃から継続しているのが、学校周りの清掃と花植え活動。実際に道路沿いのポイ捨てごみが減少するなど、地域美化に一役買っている。また、2000年頃から実施しているのが、戦没者の慰霊塔「地域西原の塔」の清掃活動。清掃の前に、戦争の歴史を学習するなど、環境と平和学習の両面から実施しているのが特徴だ。同時に、命の大切さを学ぶためにヤギの飼育も行っている。エサは校内の草、フンは畑の肥料にしながら資源循環に取り組む。

「今回表彰されたことで、これまで活動してきたことが認められたと、子どもたちも感じたと思います。地域に見守られながら、共に環境のことを考えていく社会づくりを今後も継続していきます」

【伝達式の出席者】 ●沖縄県 西原町立坂田小学校の皆さん
●沖縄県 環境部 環境整備課 副参事 吉元 真仁様
●沖縄県 環境部 環境整備課 主査 玉城 美佐子様
●西原町教育委員会 教育長 新島 悟様
●沖縄地連 小山 良彦氏（沖縄コカ・コーラボトリング株式会社）
●沖縄地連 山内 昌宏氏（沖縄コカ・コーラボトリング株式会社）



【優良校】受賞校25校のうち4校を抜粋紹介

宮城県 東松島市立矢本西小学校

自分たちが住む地域をきれいにしようと2020年から開始した「ピカピカ大作戦」。住民や保護者とともに、公園や集会所、矢本駅、通学路を清掃しながら積極的に環境美化に努めている。年に3回活動が続ける中で、通学途中のポイ捨てごみを自主的に回収する児童も見受けられるなど、これからも町をきれいにしようという意識変化が見られるようになった。



「東松島市は『SDGs未来都市』に指定されています。17のゴールの一つである「住み続けられるまちづくりを」に向かって、今後も活動が続けていきます。地域住民の方々も、たいへん光栄に感じておりました」

〔伝達式の出席者〕

- 宮城県 東松島市立矢本西小学校の皆さん
- 宮城地連 奥野 陽介氏(キンビバレッジ株式会社)
- 宮城地連 遠藤 巧氏(コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社)

愛知県 南知多町立篠島小学校

ウミガメが産卵する前浜の美しい海岸を守るため、「篠島ウミガメ隊」を結成、全校で浜清掃に取り組む。きっかけは、ウミガメが絶滅危機に陥っていることを知った児童数名が行っていたボランティアの浜清掃だった。共感した児童有志の行動力で、町などから支援を受ける活動に発展。啓発ポスターも手作りし、駅などに掲示して美化を呼びかけている。



「今年でウミガメ隊が結成して10年目になりますが、この活動が20年、30年続いて、親子で活動ができるような日が来ればうれしいです。これからも自信をもって、活動が続けて欲しいと思います」

〔伝達式の出席者〕

- 愛知県 南知多町立篠島小学校の皆さん
- 南知多町教育委員会 学校教育課 学校教育係長 大崎 沙久実様
- 愛知地連 原田 まき子氏(カゴメ株式会社)

和歌山県 田辺市立上秋津小学校

自分たちが住む町を今よりさらに美しくしたいと児童が発案して、2007年から「クリーン作戦」に取り組む。校区を6か所に分けて、縦割り班で実施、高学年が低学年にごみの分別などを指導しながら行う。学校だけでなくで知った地域住民も参加するなど、美化活動をきっかけに、児童と住民の交流が活発化。また、アルミ缶回収やリサイクル活動も盛んだ。



「私たちは、この上秋津小学校の地域がきれいになればいいなと思ってクリーン作戦を続けてきました。だから、この活動で賞をもらえたことがとてもうれしいです。これからは、みんなが住みやすくなるように、クリーン作戦を頑張りたいです」

〔伝達式の出席者〕

- 和歌山県田辺市立上秋津小学校の皆さん
- 田辺市教育委員会 学校教育課 岸本 晃治様
- 和歌山県教育庁 紀南教育事務所 中瀬 雅之様
- 和歌山地連 牧野 貴宏氏(大塚製薬株式会社)
- 和歌山地連 山名 裕之氏(ダイドードリンコ株式会社)
- 和歌山地連 林田 雄一氏(ダイドードリンコ株式会社)
- 和歌山地連 服部 高幸氏(和歌山ノーキョー食品工業株式会社)

佐賀県 佐賀県立うれしの特別支援学校 中学部

開校時の2007年から続いている、中学部1年生の和泉式部公園や地域のお地蔵周辺の清掃活動。地区婦人部会といっしょに、お地蔵さんの掃除や、花瓶を洗って季節の花を生けている他、お地蔵さんの古い前掛けや笠を、自分たちが新しく手作りしたものにかき替えている。住民にも喜ばれており、こうした地域貢献活動を通し、生徒の郷土愛が育まれている。



「表彰授与式では、生徒が自主的に地域清掃などの活動に参加し、誇りをもっていることをあらためて感じました。今回の受賞がこれからの取り組みの励みになれば大変うれしく思います」

〔伝達式の出席者〕

- 佐賀県立うれしの特別支援学校の皆さん
- 佐賀県 県民環境部 環境課 平 智子様
- 佐賀地連 石田 達二氏(アサヒビール株式会社)

学校における環境学習の教材の一部として活用が出来ます。

自由研究・
調べ学習に



「まちの美化」と「リサイクル」をテーマにした小学生用のサイトがあります！

まち美化キッズ

【サイトのご紹介】

「まち美化キッズ」は、食品容器環境美化協会が小学校高学年を対象に制作した学習 Web サイトです。児童たちの身の回りにある飲料容器「びん、かん、ペットボトル」を通して、環境美化・リサイクルの大切さや仕組みを「まち美化ってなあに?」「ポイすてストップってなあに?」「調べ学習コーナー」等、楽しく学べる構成となっています。



まち美化ってなあに?



ポイすてストップってなあに?



ホームページは
こちらから

まち美化キッズ 検索
<https://www.kankyobika.or.jp/kids>



【編集・発行】

公益社団法人 食品容器環境美化協会（食環協）

〒108-0023 東京都港区芝浦2-15-16 田町K・Sビル6階

TEL. 03-5439-5121 FAX. 03-5476-2883 URL <https://www.kankyobika.or.jp/>



植物油インクで印刷されています。

